

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

さんちゆう

たから

こと

（山中に財の事）

新版
1892
〜
1893

うえのどのごへんじ さんちゅう たから こと

上野殿御返事（山中に財の事）

こうあん ねん

弘安2年（79）

がつ にち 8月8日

さい 58歳

なんじようときみつ 南条時光

がもくいっかん

塩 ひと

俵

いものかしらひとたわら

薑

しょうしょう

鵜目一貫・しお一たわら・蹲鴟一俵・はじかみ少々、

ししや

おく た お

使者をもつて送り給び了わんぬ。

暑

みず たから

寒

ひ

たから

飢 渴

あつきには水を財とす。さむきには火を財とす。けかち

こめ たから

戦

ひようじよう

たから

うみ

ふね

には米を財とす。いくさには兵杖を財とす。海には船を

たから

やま

うま

財

むさし

しもうさ

いし

たから

財とす。山には馬をたからとす。武蔵・下総に石を財と

さんちゅう

家

芋

うみ

塩

たから

そうろう

す。この山中には、いえのいも・海のしおを財とし候ぞ。

たけ

こ

き

ことうそうら

塩

味

竹の子・木の子等候えども、しおなければ、そのあじわい

土

つちのごとし。

こがね もう

こくおう たから

たみ たから

また金と申すもの、国王も財とし、民も財とす。たと

こめ

いつさいしゅじよう

命

銭

えば米のごとし、一切衆生のいのちなり。ぜに、またかく

かんど

どうざん

もう

やま

か

やま

出

そうろう

のごとし。漢土に銅山と申す山あり。彼の山よりいでて候

銭

いちもん

せんもん

皆

さんぜんり

うみ

渡

きた

ぜになれば、一文も千文もみな三千里の海をわたりて来る

ばんにん

みな

珠

思

ほけきよう

進

ものなり。万人、皆、たまとおもえり。これを法華經にまい

たも

らせさせ給う。

しやく 摩 男

もう

にん

ごころ

いしへん

たま

釈まなんと申せし人のたな心には、石変じて珠となる。

こん

栗

おう

すな

こがね

ほけきよう

そうもく

ほとけ

たも

金ぞく王は沙を金となせり。法華經は草木を仏となし給

況

こころ

ひと

ほけきよう

しようしゆ

にじよう

ほとけ

う。いおうや心あらん人をや。法華経は焼種の二乗を仏

たも

況

しようしゆ

ひと

ほけきよう

いっせんだい

ほとけ

となし給う。いおうや生種の人をや。法華経は一闡提を仏

たも

況

しん

者

ことごと尽

となし給う。いおうや信ずるものをや。事々つくしがたく

そろう

もう

きようきようきんげん

候。またまた申すべし。恐々謹言。

はちがつようか

八月八日

にちれん

日蓮

かおう

花押

うえのどのごへんじ

上野殿御返事